

平成28年度 第3回 北海道紋別養護学校 学校評議員会の概要

2月16日（木）に今年度の第3回学校評議員会を紋別養護学校で開催しました。その概要についてお知らせします。

今回のテーマ「一年間の教育活動について」

1 【説明】平成28年度学校評価について

○ 紋別養護学校の学校評価

全項目の平均点

学校職員3. 1、保護者3. 1

□高い評価の項目

- ・個人情報の管理の徹底（学校職員）3. 6
- ・丁寧な言葉使い、心情に配慮した指導（保護者）3. 6

■低い評価の項目

- ・業務の偏り、進路に関すること、指導の専門性、PTA活動（学校職員）2. 9
- ・学部間での指導の引継ぎ、PTA活動（保護者）2. 2

○ ひまわり学園分校の学校評価

全項目の平均点

学校職員2. 9、保護者3. 3、学園職員3. 2

□高い評価の項目

- ・個人情報の管理の徹底（学校職員）3. 4
- ・丁寧な言葉使い（保護者）3. 7
- ・安全管理、学習用品の計画的な購入（学園職員）3. 7

■低い評価の項目

- ・進路に関する説明（3者共通）
学校職員2. 5、保護者2. 6、学園職員2. 1
- ・業務の偏り、効率的な業務推進（学校職員）2. 3

2 評 議

○良い点 ●改善点

- 保護者が連絡したことが小さな事でも確実に伝わっている事は、相手意識に立った対応として、心強く感じている。また、直接話すことが難しい場合も、丁寧に細かく子どもの様子や変化をわりやすく伝える工夫がされている点も良い。
- 登校時に、管理職を含め、保護者や子どもに挨拶がしっかりできている点が良いと感じる。
- 個人情報の管理の徹底は大切なことに感じる。管理は徹底しながらも、障がいのある子どもが地域の人に理解されるよう外とのつながりは大切にしたい教育活動を進める必要がある。
- 障がい児入所施設では、児童4. 3人に職員1名が配置されている。学校では、それ以上の職員が配置され手厚い指導がなされている。手厚い指導をする際、過支援にならないための指導の質的向上が重要である。授業参観をとおして、過支援にならない効果的な指導を今年度は見ることができ、安心している。今後も継続願いたい。
- 経験の少ない職員が多いと説明を受けたが、職員一人一人が経験不足を自覚しながら、保護者と子どものことを一緒に考えていく姿勢を今後も継続してもつことが必要に感じる。
- 学校評価において、専門性に係る自己評価が低い職員の専門性を高める事は急務に感じる。障がいのある子どもの指導を進めるからこそ、このことへの取組は特に改善が必要である。
- 進路指導について、福祉サービスの多くない地域であることから、現状を学校として、職員一人一人が理解するとともに様々な機関にサービスの充実を含め、積極的な働きかけが必要である。
- 仕事の偏りの解消に向け、一人一人の職員がどの仕事も重要である事を自覚し、職責を全うする意識を強くもつ事が重要である。
また、一人一人の仕事ではなく、チームで取り組んでいることを自覚することも大切である。



次年度に向けて（校長から）

関係機関や地域との連携の充実を図ること、適切な情報管理を図り充実した教育活動を推進すること、高等部卒業後の生徒の生活を考えた指導の充実を目指すことなど、いただいたご意見を真摯に受け止め、学校のこれからを考え、職員と課題と改善策を共有して取り組んでいきたい。